

平成30年11月12日(月)

佐藤一斎その2

『少にして学べば、則ち壮にして為す有り。壮にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず。』

佐藤一斎のこの言葉について、三学の教えとといいます。

つまり、生涯学ぶことは続くのだということです。

しかし、この教えは、自分のために学ぶということにはとどまりません。自分の利益のために学ぶのではなく、「世のために学ぶべきである」ということなのだと理解します。

今の社会システムを維持し、さらによりよい社会を形成するためには、学び続けることが必要なのです。自分のためだけではなく他人のための学びの在り方について、きちんと考えを持っている人物になってほしいと生徒たちに伝えていきます。

佐藤一斎の故郷である岐阜県恵那市では、「家族で楽しむ『言志四録』」という冊子を作成して、市内の子供たち全員に配っています。儒教の影響を受けた文章ですが、不易と流行の不易の部分を担当する言葉を子供たちに教えているのだな、すばらしいなと思いました。

磐城高校にも、言葉が満ち溢れていますよ。

『類のない不思議なチームよ さらば行けそして勝てよ』

『温故知新の古諺に生きよう 大いなる未来を生きよう』

『ああ楽しわれらともがら 努め励みて我ら弛まじ』

『磐城節は一拍子 ここは磐城か平の町か 平の町なら高校は磐城』

『磐城は懸命である 磐城は美しい』

『積極果敢に最先端に加速し、可能性の無限軌道へ』

『知性と責任』

加えて

『未来はこじ開けるもの。栄光はつかみ取るもの』